

無駄話

作／山田 志穂

へ登場人物へ

女 男

夜のオフィス。

隣り合ってパソコンに向かう二人。

女、デスクの引き出しを開ける。

女 あ。

男 え。

女 お茶パック切らした。

男 お茶パック。

女 まあいいかお湯で。

女、ポットでお湯を入れ、すする。

女 熱、

男 ティーバッグのと言ってます？

女 ん。

男 ティーバッグのことですよね。

女 お茶パックだよ。

男 それあれですよ。茶葉入れる袋のこと言

うんですよ。

女 あー

男 最初から茶葉入ってるのはティーバッグ。

女 なんかさ。お湯も美味しいもんだね。

男 無視か。

女 お茶パック入れないと飲めないと思っ

てたのにさ。

男 ティーバッグ。

女 無いなら無いで意外といけちゃうんだ

よね。

男 お湯。

女 そう。

男 良かったじゃないですか。

女 何が。

男 お湯のまま飲めるならいいじゃないで

すかそれで。楽でいいじゃないですか。安

上りだし。

女 いやあ。

男 なんですか。

女 私さっきまでお湯は美味しくないと思

ってたんだよ。

男 はい。

女 そしたら意外と悪くなくて。

男 美味しかったんですね。

女 未開の地に足を踏み入れてしまった。

男 新しい発見ですね。

女 世界が広がってしまった。
男 良かったじゃないですか。
女 良くないよ。
男 どうして。
女 せっかく安定してたのに。
男 安定？
女 私仕事するときの飲み物決めてるのね。
男 お茶。
女 と、コーヒー。
男 ああ。飲んでましたね。
女 で、順番も決めてる。
男 飲む順番？
女 午前中はお茶で昼過ぎたらコーヒー。で、
残業するときはお茶。
男 ふーん。
女 ずっと安定してたのに、お湯も飲みたく
なってしまうた。
男 飲めばいいじゃないですか。
女 そういうわけにいかんよ。
男 どうして。
女 習慣だもん。
男 習慣。
女 習慣を変えるって難しいんだよ。

男 そうですかね。
女 例えばこの会社まだFAX使ってるで
しょ。
男 はい。
女 不便だよ。送信ミス多いしデータ保存で
きないし小さい文字見えないし。
男 ああ、
女 なのに使い続けてる。
男 まあ、そうですね。
女 不便なのはね、みんな分かってるんだよ。
でもやめられない。習慣だから。
男 はい。
女 お茶もそうなの。
男 はい？
女 変えられないの。習慣だから。
男 じゃ、変えなくても、
女 でもお湯も飲みたいよ。
男 じゃ、変えたら。
女 でも変えられない。
男 ええ。じゃあどうするんですか。
女 どうしよう。どうしたらいい。
男 知りませんよ、そんなこと。自分でなん
とかしてくださいよ。

女 えー。冷たいなあ。
男、仕事に戻ろうとするが
女 なんかさ。
男 …はい。
女 引き出しの中に常備してたんだけどさ。
男 お茶。
女 お茶、コーヒー、お茶。お茶、コーヒー、
お茶って。
男 並べてるんですか。
女 あ、今は無いよ。切らしてるから。
男 並べてるんですか。
女 うん。
男 えー。順番に？
女 そう。
男 マメですね。
女 マメではないでしょ。
男 マメですよ。だってわざわざ袋から出し
て一個ずつ並べるんですよ。
女 うん。
男 手間ですね。
女 手間ではないでしょ。

男 手間ですよ。普通まとめてお茶、コーヒ
ーって置いておくだけです。

女 でもそれ迷わない？

男 迷うって。

女 次どっちにしようかなって。

男 迷うんですか。

女 喉乾いたなって引き出し開いてさ。お茶、
コーヒーって置いてあつたらさ。迷うよ。

男 いつ何飲むか決めてるんじゃないんで
すか。

女 決めてる。

男 じゃあ迷わないでしょう。

女 迷うでしょ。そんな置き方。「どっちが
いいですか」って聞かれてるみたいじゃん。

男 ええ。

女 「選んでくださいよ」って言われてるみ
たいじゃん。お茶のつもりで引き出し開け
てもさ、ああコーヒーも捨てがたいなあっ
てなるかもしれない。

男 はあ：

女 でも並んでたら大丈夫。順番だから。

男 えっと、

女 引き出し開けて一番手前のやつ取るだ

け。それが正解。

男 要するに迷いたくないんですね。

女 ん？

男 お茶かな、コーヒーかなって。迷うのが
嫌なんですね。

女 間。

女 へえ。

男 へえってなんですか。

女 なるほどね。

男 いや知りませんけど。

女 そうかもしれない。迷ってる時間がもっ
たいないってどうか。

男 まあ。決めておいた方が楽っていうのは
分かりますよ。

女 ステイプもそうだしね。

男 ステイプ。

女 うん。

男 ステイプ？

女 うん。

男 うん。

女 うん。

男 ステイプ？

女 うん。

男 ステイプ？

女 うん。

女、お湯をすする。

そして仕事に戻ろうとする。

男 いやいや。

女 へ。

男 説明してくださいよ。

女 何が。

男 誰ですかステイプ。どのステイプ。

女 アップルの人だよ。 아이폰作ったで
しょステイプ。

男 なんだジョブズか。

女 あの人も黒いタートルネック着て
たでしょ。下はジーパンでさ。

男 そうでしたっけ。

女 あれも「毎日何着るか考える労力が勿体
ないですな」みたいなことらしいよ。

男 へえ。

女 ていうかジョブズって（笑う）

男 え。何。

女 言ったじゃんさつき。ふふ。ジョブズ。
なんで僕がおかしいみたいな感じにな
ってるんですか。普通に言うでしょう。

男 言う？

女 言う？

男 言う？

女 言う？

男 言う？

女 言う？

男 言う？

女 言う？

女 嘘だあ。だってジョブズって苗字だよ。

男 だったら尚更ジョブズでしょ。「内閣総理大臣誰ですか」って聞かれて「義偉さん」って答えますか。

女 よしひでさん？

男 「菅さんです」って言うでしょう。

女 おお。菅さん義偉さんなの。

男 ほら。そういうことですよ。苗字の方がなじみあるんですって。

女 なにそれずるい。

男 何がずるい。

女 例えが悪い。

男 どうして。有名どころでしょう。

女 菅さん日本人だもん。ステイブはアメリカ人だよ。

男 だから。

女 日本とアメリカは文化が違うでしょ。

男 文化って…

女 アメリカ人で例えてよ。

男 じゃあ「アメリカの大統領誰ですか」
女 トランプ。

間。

女 え。トランプ。

男 いや聞こえてますけど…そこはドナルドって言わないと。

女 なんです。

男 だから。今、僕が苗字派でしょ。

女 うん。ジョブズ派。

男 そう。僕ジョブズ派。

女 私ステイブ派。

男 てことは僕トランプ派で、

女 私もトランプって言うよ。

男 だからそこは名前派なんだからドナルドって言わないと、

女 ドナルド（笑う）

男 ええー。そこ笑っちゃう？

女 マックかよ。

男 いやアヒルでしょ。

女 え？

男 え？

間。

女、男の顔を見ながらお湯をすすする。

男 …なんでですかそれ。

女 …（お湯をすすっている）

男 え。怖い怖い。どういう感情。

女 …（すすっている）

男 ねえ。なんで僕見られてるんですか。

女 見てないんですけど。（見てる）

男 なんて僕のこと見ながらお茶飲むんですか。

女 これお茶じゃないんですけど。

男 お湯！

女 んふふふ。

男 …ふざけてないで早く仕事してくださいよ。

男、パソコンに向かう。

女、しばらく男を眺め、

女 寂しい？

男 まだ先でしょう。

女 もうすぐだよ。あと一月と、ちよつと。

男 まあ。

女 寂しい？

男 別に。寂しくないですよ。

女 ほんと？

男 はい。

女 貴重な残業仲間がいなくなっちゃうんだよ。いいの。

男 仲間だったんですか僕たち。

女 えー。違うの。

男 仲間だと思ったことはないですね。

女 じゃあ何。

男 ……

女 ねえ。何。

男 会社の先輩。

女 ……ふうん。

男 なんですか。

女 別に。なんでもありません。

男 ……

女 ……

男 ……

女 ……

男 ……

女 ……

男 ……

女 ……

男 ……

女 そうだね。ここよりは。

男 へえ。

女 FAXなんて使ってないよ。きつと。

男 どうでしょうね。

女 何しようかな。

男 何が。

女 夜だよ夜。こんな遅くまで仕事しなくて

男 良くなるんだから。

女 ああ。

男 遊びに来てあげようか。

女 ここにですか。

男 うん。

男 意味分らないでしょう。

女 なんです。そしたら寂しくないでしょ。

男 寂しいって言ってないし。

女 素直じゃないなあ。

男 どうせ来ても無駄話ばかりするんで

女 しょうね。

女 無駄話って思ってたの。

男 はい。

女 えー。

男 だから毎日こんな時間まで残ることに

女 なっちゃうんですよ。

女 おお。言うねえ。

男 時計見てくださいよ。9時ですよ、9時。

女 はいはい。分かったよ。ならば私はそろ

そろ帰ってあげよう。

男 え。終わっただんですか。

女 終わらないけど。明日朝早く来てやろう

男 かなあ。

男 そうですか。

女、帰り支度を始める。

男、引き出しから小さな箱を取り出し、

女のデスクに置く。

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

女

箱を開ける女。

女 紅茶。

男 切らしたんでしょう。ティーバッグ。

女 お茶パックね。

男 どっちでもいいですけど。

女 くれるの。

男 はい。どうぞ。

女 おお、ありがとうございます。

男 バラエティパックです。

女 え。

男 ダージリン、アッサム、アールグレイ

等々ざっと十種類はありますか。

女 ……なんてこった。

男 迷うでしょう。

女 迷うよ。

男 迷うの嫌ですもんねえ。

女 わ。君それ分かっててこれ、

男 どれがいいですか。

女 えっ

男 選んでくださいよ。

女 えええ…

男、女の手から箱を取り、ひっくり返す。
散乱する紅茶。

女 ちよ、何してるの。

男 ブラック？

女 へ。

男 コーヒー。いつもどうやって飲みますか。

女 ああ…ブラック、かな。

男 ならダージリンとかどうですか。

女 ダージリン…

男 香りが良いのでストレートティーに向

いています。

女 そうなの。

男 デインブラもあつさりしてて美味しい

ですよ。

女 へえ。

男 ミルクティーは好きですか。

女 えっと…嫌いじゃないけど。

男 じゃあこれ。(二つ渡す)

女 アッサム…

男 アッサムはミルクティー向きなんです。

ちよつと癖ありますけど、渋みとコクがあ

る。

女 そうなんだ。

男 フレーバーティーって分かりますか。

女 ううん。

男 香り付きの紅茶のことです。えっと…こ
れ。アールグレイとかアッフルティーとか、

女 うん。

男 苦手な人も多いですけどハマると楽し

いんですよ。香りが強いから夏場はアイス

ティーにしても美味しく飲めるし。

女 へえ。すごい。

男 まあ。こんなのは定番ですけど。

女 面白いかも。

男 でしょ。

女 知らなかった。紅茶って全部一緒だと思

ってたよ。

男 悪くないでしょう。選ぶのも。

女 え？

男 迷うのも。

女 ……うん。

散らばった紅茶を眺める二人。

男 習慣は変えられます。

女 うん。

男 楽しめばいいじゃないですか。知らない

ことも新しいことも。

女 ……

男 迷う時間も良いもんですよ。意外と。

女、笑い出す。

男 え。何。

女 …いや。なんか面白くて。

男 面白い？

女 君っていい人だね。知らなかったよ。

男 ええ。今更？

女 うん。

男 何年も一緒に働いてきたのに。

女 そうだね。

男 遅いですよ。気付くの。

女 うん。

男 遅いですよ。

女 うん。

男 今更。

間。

女 ほう。

男 してませんって。しんみり。

女 はは。そうかそうか。

男 …

女 よし。せっかくだから一杯やろうぜ。

男 え？飲みに行くんですか。

女 違うよ。紅茶でしょ。

男 あ、ああ。

男、散らばった紅茶を丁寧に並べる。

男 はい。どれがいいですか。

女 うん。

男 選んでくださいよ。

女 …じゃあ、

(幕)

女 …何。寂しいの。

男 はあ？なんでそうなる。

女 だって。なんか、しんみりしてるから。

男 してませんよ別に。